

寸評

担当教員 朱 新建

教養セミナー現代中国事情は、木曜日の1時限に法学部向けの開講です。情報処理教育センターの7101教室を使用していますが、最新型のパソコンを利用し、常時にインターネット接続できるから、調べる、まとめる、発表する作業はとても便利です。

毎回は、学生2,3人ずつ、指定の教科書『日中報道 回想の三十五年』(吉田実著、1998,8潮出版社)の担当する部分(5~8ページ分)を壇上で読み、自分で調べた事件や人物などを発表する。そして、学生からの質問はあまりないから、担当教員は質問をしたり、補足したりする。そして、最近日中間の最新の出来事などについて教員が説明したり、学生から質問を受けたりする。学生全員が、教科書を読むのに漢字の読み方について結構時間をかけて、それぞれ担当する部分をよく調べてきた。壇上の発表を聞きながらわからない事件や人名について、素早くネットで調べるようになった学生も増えた。レポートは学生全員がよく調べ、パソコンでそれぞれ春・秋学期4000字以上まとめることができた。高く評価したい。

名古屋を介した中米ピンポン外交と中国の経済発展

キーワード：周恩来 ニクソン大統領 日中卓球会談紀要(ピンポン外交)

1. はじめに

近年急激な成長を遂げる中国。この成長の背景には過去の中国と米国との国交の復活に関わった“ピンポン外交”がある。そこに我が国の都市、名古屋が大きく関わっている。そこで私はここまで大きく成長した中国の背景には何があったのかと思いこれらの歴史についてレポートをまとめることにする。

2. 米中関係の歴史について

中国と米国との国交復活までの近代米中歴史表

1949年	10・1	中華人民共和国成立
1950年	6・25	朝鮮戦争開始
	10・25	中国人民義勇軍参戦
1958年	8・23	中国軍、金門・馬祖砲撃（台湾海峡緊張）
1960年	4・16	「紅旗」誌「レーニン主義萬歳」論文、中ソ論争表面化
1963年	7・5 ～20	中ソ両党会談、成果なしで終わる
1965年	2・7	米軍、北ベトナム爆撃開始（ベトナム戦争）
1966年	5・16	中国文化大革命始まる
1968年	5・13	米、北ベトナム、パリ和平会談開始
	8・20	ソ連、東欧軍、チェコ侵入
	8・23	周恩来、「ソ連社会帝国主義」と断罪
1969年	1・20	ニクソン米大統領就任
	3・2	中ソ両軍、珍宝島（ダマンスキー島）で衝突（以後、衝突事件頻発）
1969年	4・1 ～24	中米第9回党大会、米ソ対決路線。林彪を毛沢東の後継者に
	7・21	米、対中貿易・旅行制限の一部緩和
	7・25	ニクソン大統領、世界旅行の途中に「グアム・ドクトリン」を発表。パキスタン、ルーマニア訪問で両国首脳に対中メッセージ仲介を依頼
	9・11	周恩来首相、北京空港でコスイギン・ソ連首相と会談
	12・19	米、再び対中貿易制限緩和
	12・24	米第7艦隊台湾海峡パトロール縮小発表
1970年	1・20	米中大使級会談（ワルシャワ）二年ぶり再開 (135回。2月21日に136回)
	5・1	米・南ベトナム軍、カンボジア侵攻（中国、137回ワルシャワ大使級会談中止を通告）
	5・20	毛沢東声明「米侵略者とその手先を打ち破ろう」
	8・23 ～9・8	中共9期2中全会（対米接近を決定か）
	10・26	ニクソン、チャウシェスク・ルーマニア大統領歓迎宴会で中国を正式名で呼ぶ
	11・10 ～15	ヤヒア・カーン・パキスタン大統領が訪中、米の対中和解の意向伝達→12・9米特使派遣受諾とのニクソンあて周恩来回答が米側に届けられる
	12・18	毛沢東、エドガー・スノーと会見、ニクソン訪中を歓迎

1971年	1・11	中国、ルーマニア通じ特使に加えニクソン訪中も歓迎と伝える
	2・8	米、南ベトナム軍、ラオス侵攻作戦
	2・25	ニクソン、外交報告で対中改善の希望を正式表明
	3・5 ～8	周恩来、ハノイ訪問
	3・15	米・対中旅行制限撤廃
	3・22	林彪、反毛沢東クーデター計画（「五七一工程紀要」）作成
	4・14	米、非戦略物資の対中直接貿易など5項目設置
	4・16	ニクソン、訪中の希望表明
	4・27	周恩来メッセージ、パキスタン・ルートを通じて米に届く
	7・6	ニクソン、カンザスシティ演説で中国の孤立化阻止と声明
	7・9 ～11	キッシンジャー米大統領補佐官、秘密裏に訪中
	7・16	キッシンジャー訪中の事実とニクソン訪中計画公表
	9・13	林彪事件（林彪、クーデターに失敗して死亡）
	10・25	中華人民共和国、国連で議席を回復（蒋介石政権は国連から脱退）
1972年	2・21 ～27	ニクソン訪中、27日「共同コミュニケ（上海コミュニケ）」を 発表。中国は72年末までに41ヶ国と国交回復
	9・25 ～30	田中角栄訪中。27日、中日国交回復
1973年	1・27	ベトナム和平協定調印
1974年	8・8	ニクソン辞任演説
1975年	4・30	南北ベトナム統一
1976年	1・8	周恩来死去
	4・5	天安門事件（鄧小平党副主席・副首相失脚）
	9・9	毛沢東死去
	10・6	四人組事件（→華国鋒体制）
1978年	7・3	中国、ベトナム援助全面停止
	12・16	米中両国、翌年1月1日付で国交樹立と発表
	12・18 ～22	中共第11期3中全会。鄧小平体制発足、近代化路線展開へ （文化大革命およびそれ以前の誤りの全面的な訂正を開始）
1979年	1・1	米中国交樹立



写真1



写真2

写真1.北京人民会堂にて中国・周恩来首相と 1971年 昭和46年1月

写真2.第三十一回世界卓球大会(名古屋) 1971年 昭和46年3月

### 3. ピンポン外交と名古屋の関係について

名古屋で開催された第31回世界卓球選手権大会終了直後の4月7日、中華人民共和国による米国卓球チームおよび西側記者団の訪中招請が発表され、10日から米国チーム及び記者団の訪中が実現をみた。その舞台

回は、名古屋の第三十一回世界卓球選手権大会の幕切れに行われた。その歓迎宴席には、周恩来首相も顔を見せ、「あなた方が米中関係の歴史に新しい扉を開いたのです」と語った。その後も米国から報道関係者、学者等の中華人民共和国訪問が続き、米中関係に新しいページが開かれた。

この一連の動きを通じて、中華人民共和国が「台湾問題が解決するまでは米中間の文化、スポーツ交流などは問題外」との従来の政策を転換したことは事実であり、この意味で、「卓球外交」は中華人民共和国のイニシヤチブで開始されたとはいうものの、他方、中華人民共和国が従来からの米国による関係改善の呼びかけに応えたものとの観方が成り立つ。

つまり名古屋は世界有数の大国である米国と中国との歴史的友好関係の橋渡し役として活躍したのである。

米国では、この“ピンポン外交”を受けて、ニクソン訪中を決める特使の派遣が決断された。その重責を負ったキッシンジャー国務長官は同年七月、アジア・ヨーロッパ訪問の途次に、この重大な任務を執行した。こうして「ニクソン訪中決定」が決定し、米中関係の歴史的転機は、このようにして訪れた。

これらピンポン外交の出現、ニクソン訪中決定に続き、一九七一年、十月二十五日には、中国が圧倒的な支持を得て国連での代表権を回復した。第二次世界大戦後の厳しい冷戦下で「米中対決」の雪解けをもたらした歴史的な大転換は、東南アジア諸国にも一段と大きな波紋を投げかけ、この地域を中立化の方向へ決定的においやる作用を果たしていった。

東南アジア諸国連合（ASEAN）の五カ国外相は、一九七一年、十一月二十五日、マレーシアの首都クアランプールに集まり、この地域をめぐる政治情勢の変化にどう対応するか、真剣に検討を重ねた。その結果、同月二十七日、東南アジアを“平和”、“自由”、“中立地帯”とする画期的な宣言を採択した。いわゆる「中立化宣言と呼ばれるもので、七十年秋に公にされたラザク構想が、ついにインドシナ周辺の東南アジア諸国の、共通の課題として取り上げることとなった。

#### 4. まとめ

2, 3でまとめた結果、名古屋は中国と米国との友好関係になくしてはならない大きな役割をした日本が誇る都市だとわかった。このように日本はアジアと他の地域との友好関係を結ぶ国としてパイプ管のような役割をする国としてなっていてほしいと思った。こういう関係を多く築いていけば互いに経済発展を助長しあうことができ、さらにいい関係を保つことが可能になって好循環にもっていくことができる。世界最大の人口をもつ中国のGDPが上がるとなれば計り知れない経済成長となるだろう。そこに日本の技術力を加えればアジアの経済力はさらに計り知れないものとなる。

今年中国では北京オリンピックを控えているが、これをきっかけにして経済力だけではなく国そのものの人気をかちとり、スポーツで感動を与えたことによって始まった「ピンポン外交」のように世界から注目を浴び、食品関係の問題、環境汚染問題などの改善により力をいれてすべての部分で国を誇れるようになってくれれば良いと思う。

#### 参考文献

- 1.吉田 実著、1998.8、『日中報道 回想の三十五年』、潮出版社
- 2.わが外交の近況 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/1973/s48-contents.htm>
- 3.写真 1,2 名古屋電気大学 [http://www.nagoyadenki.jp/j/sport\\_1.html](http://www.nagoyadenki.jp/j/sport_1.html)

## コピー大国&有害大国

キーワード： コピー 黄砂、ゴミ、光化学スモッグ

### 1. はじめに

現在、中国は世界中でもっとも急成長している国である。翌年には北京オリンピックをひかえ、建設ラッシュに沸いている。しかし、中国は重大な問題を抱えている。ユーラシア大陸で二番目の大国であり、総人口60億人以上の国民をかかえていて経済成長している中国を調べてみました。

### 2. コピー大国

アメリカの業界団体（IIPA）の調査によると、2006年の著作権侵害による\*世界損害額は300~350億ドルに達するとの結果がでた。\*2特に著作権侵害が深刻な国は、中国の次にロシアです。この二国は、「昨年と比べ改善の跡がほとんど見られない」との指摘されている。なかでも、中国のビジネス・ソフトウェア、レコードや音楽の違法コピー率はどれも80%強と高い数字です。この背景にあるのは、中国人の著作権認識の低さにあるのだらうと思います。ちなみに、日本のビジネス・ソフトウェアの違法コピー率は、27%だった。\*【補足】違法コピー率が高い国々による2006年の損害合計は、152億5000万ドル。損害額のうちわけは、「ビジネス・ソフトウェア」が103億4500万ドル、「レコード・音楽」が23億7000万ドル、「エンタテインメント・ソフトウェア」が19億5000万ドル、「書籍」が5億8200万ドルであった。（映画の損害額は不明）\*2【補足2】現在、韓国は「コピー王国」と国際社会から非難されている。中国からの偽物品が国内で蔓延している状態なのだ。また、韓国から日本への輸入品に、中国で作られたコピー品が、韓国産コピー品として輸出していた。韓国は、国際的なコピー流通の拠点だと、非難を浴びるのはまぬがれない状態にある。

### 3. 有害大国

現在急速に経済成長する中国の隣国である日本では、隣国中国の「開発」の余波をうけている。例えば、黄砂。黄砂とは、中国大陸の砂漠地帯から偏西風によって日本に運ばれた黄色い砂である。この黄砂が中国の工場地帯の上空を通過する際、工場からでた大気汚染物質を吸着し、健康に悪影響を与える汚染物質に変身する。そして、大気汚染物質が付着した黄砂を吸いこんだために、小さな子供やお年寄りが気管支炎等を発病するなどの報告が出ている。北京オリンピック開催に向けて開発が続くことにより、汚染された黄砂が日本に飛来する回数は増える見込みだ。

他にも\*漂流・漂着ゴミも問題だ。大陸側の日本海の沿岸部には、外国からのゴミが漂着している。そのほとんどが、ハングル語や中国語の書かれたゴミである。ゴミの種類も様々であるが、特に驚くのが注射器等の医療廃棄物である。例えば、血が残っている注射器や針が付きっぱなしの注射器、中身が残った薬ビン等通常では考えられないお粗末な処理の仕方である。これらが日本の海岸に漂着し、これらを幼い子供が誤って触ってしまったら考えると怖いものである。

また、先に書いた黄砂のように、日本に飛来してきている物がある。光化学スモッグである。特に被害を受けているのは、ユーラシア大陸に近い九州地方である。最近では、福岡県や山口県で光化学スモッグ注意報が多発している。この光化学スモッグは、微量ながら関東地方でも観測されテレビでも取り上げられた。正しくいえば光化学スモッグは、光化学オキシダントが起こす。その主成分はオゾンで大気中にあるオゾンではなく、自動車や工場などが出す窒素酸化物等の大気汚染物質が日光を浴びて発生する。日本での光化学スモッグは70年代がピークだったのが、近年、再び光化学スモッグ注意報の発令が増えている。原因は「中国で発生したオゾンが、偏西風によって日本に流れてきたのでは」とみられている。背景には、今急成長している中国工業地帯にあるようだ。これは中国からの越境汚染にほかならない。

上記以外の有害汚染被害が日本にもたらされているだろう。

【補足】海岸に漂着したゴミを調査したところ。年間約15万トンのゴミが漂着していることがわかった。しかし、回収された医療廃棄物約2万個のうちハングル語や中国語の表記があったのは約800個たらず。外国から流れ着いたと思われるゴミはわずか6%

大半は、国内で発生したものである。「漂流・漂着ゴミは外国から」との印象が強いが、事實は、日本国内も漂流・漂着ゴミを出しているのである。

### 4. まとめ

今経済成長している中国は、日本の高度経済成長期と似ている。国の発展には必ず公害等の問題が発生する。

自分は、中国が日本の経験したバブル経済にならないかが、今一番の関心事です。ここで自分が考えた事を書いていきたいと思います。このまま中国がバブル経済へと発展したとします。中国の土地や不動産は、日本のバブル経済期と同様に、膨れ上がり急激に大金持ちが増えていきます。そして、日本のバブル経済期と同様に、はじけとびます。ここで日本のバブル経済期と違うのは、日本と中国の国土面積と総人口数です。

日本では、バブル崩壊後は悲惨でした。倒産する会社は数知れず。自殺者も多くでました。そして、長い不景気が続きました。中国は、日本よりも国土面積と総人口数が桁違いです。

会社の数も多いわけで、中国のバブルがはじけたら一体どれくらいの会社が倒産し、どれ程の人々が自殺してしまうのか？また、日本はバブル崩壊から徐々に回復してきているが、はたして中国は回復できるのか？今回調べてみたのは、発展している中国の問題だが、ここからは、中国の経済は日本と同じ道を歩むのか？について調べていきたい。

#### 参考文献

1.吉田 実著 1998.8 『日中報道回想の三十五年』 潮出版社

#### 参考サイト

2.著作権侵害が深刻な中国とロシア、ビジネス・ソフトの違法コピー率は80%強

[http://search.yahoo.co.jp/search?p=%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E3%81%AE%E3%83%93%E3%82%B8%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%81%AE%E3%82%B3%E3%83%94%E3%83%BC%E7%8E%87&ei=UTF-8&fr=top\\_v2&x=wrt](http://search.yahoo.co.jp/search?p=%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E3%81%AE%E3%83%93%E3%82%B8%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%81%AE%E3%82%B3%E3%83%94%E3%83%BC%E7%8E%87&ei=UTF-8&fr=top_v2&x=wrt)

3.黄砂・大気汚染・アレルギー・病気

<http://www.okadaue.com/health/e58.htm>

4.海岸の漂着ごみ年間15万トン

<http://www.47news.jp/CN/200703/CN2007030201000617.html>

5.光化学スモッグは中国発？環境研・九大が推計

[http://www.people.ne.jp/2007/05/13/print20070513\\_71011.html](http://www.people.ne.jp/2007/05/13/print20070513_71011.html)

## 中国の西部大開発

キーワード：西部大開発 青蔵高原鉄道 西部少数民族への影響

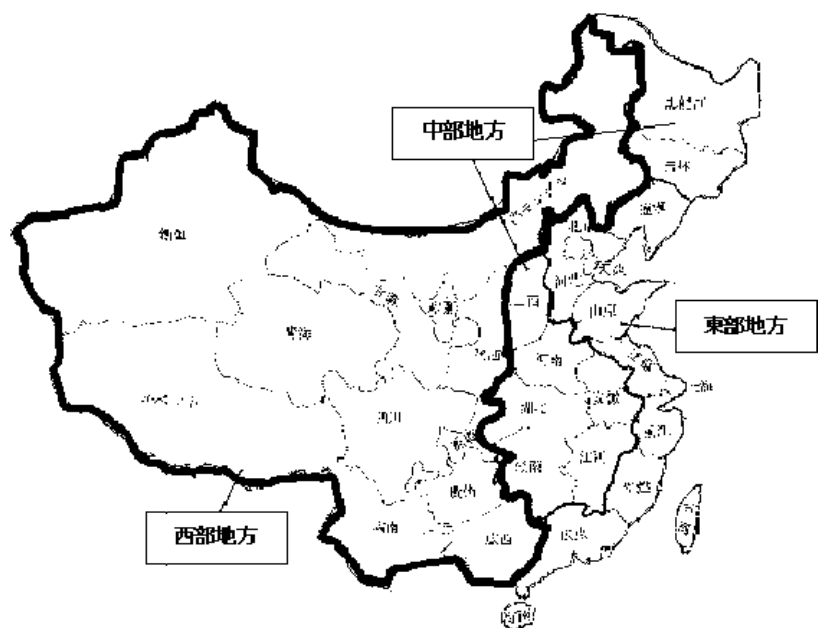
### 1. はじめに

春に述べた中国の公害。この公害の被害が日本やその他の隣国だけに及んでいるわけではないのです。中国国内でも公害の被害がマスメディアに取り上げられないですが少なくはないでしょう。特に被害をこうむっているのが、今大投資により大開発が進む中国西部

では開発の発展による公害が拡大している。中国の公害を西部に限定として調べました。また、中国は多民族国家である広大な領土の西部に住んでいる民族にも焦点をあてて調べました。

### 2. 西部大開発

この西部大開発の対象地域は、12省・市・自治区で全国総面積70%超、人口3億5500万人(全人口28.5%)におよぶ。この西部大開発の最終目標は、中国の経済建設の重点を東部地方から西部地方へのシフトさせることである。



この開発で改善されると考えられているのが、

1. 国内地域格差の縮小(98年現在、東と西の格差は2倍以上)

2. 少数民族問題の緩和（経済発展による西部の民族との融和を図る）
3. 内需拡大（西部発展による興る新たな需要の創造とデフレ防止）
4. 生態環境の改善と保全（西部の砂漠化と土壌のアルカリ化、汚染などの抑制）
5. 産業構造の調整（全国規模の産業構造の再編成を図る）

この5つの点である。しかし、この大開発は既にいくつかの問題に直面している。

1. 環境問題：開発と環境保全の両立の難しさ
2. 資金問題：開発にかかる莫大な資金の調達の難航
3. 人材問題：開発指揮する人材、開発従事者、地域経済を振興できる人材確保の難航
4. コスト問題：西部は環境・地理的条件が厳しく人口密度が低い、そのため建設された社会インフラの利用率が低く、効率が悪い。

この4つの点の問題により、今西部大開発が頭を悩ませている問題である。

この問題を克服し大開発を成功させる方法は自分が参考にしたサイトに述べている。

中国の西部大開発には五つのポイントがカギを握っているとある。

1. 大開発の初期段階は、中央政府が開発をコントロール下に置いて行う。開発の規模と国土均等的発展という政治的な目的ならば国家的な取り組みが必要だとしている。
2. 中央政府が、西部大開発を行う根拠と実施方法を裏付ける法律を制定する。大開発に伴う開発費の乱用・汚職を防ぎ、資金と人材を効率的に利用し図るための法律も必要だとしている。
3. 西部大開発および全国総合開発計画の制定を早急に行う。限られた資金・人材の効果的な利用を発揮させるには「拠点開発方式」を取ることが現実的としている。
4. 高速鉄道・高速道路・航空などの近代的交通網・通信網の優先的に建設する。ただし、公共投資の肥大化と硬直化に注意するようとしている。
5. 開発の全過程で環境の保全に配慮する。日本は経済成長を優先した為、深刻な公害問題を引き起こした。持続的な経済発展と開発をするには、環境への配慮が大切だとしている。

現在の中国の西部大開発は、日本の経済成長と国土開発に酷似している。中国は日本が経験した様々な問題とそれからの教訓を、西部大開発に活かすべきだとしている。また、西部大開発は巨額の資金・人材・各種の技術が必要となる。国内だけで調達するだけでなく、日本の協力を考慮すべきだとしている。そうなれば、日中両国の経済協力により両国の関係はいつそう深くなると述べている。

## 2. 青蔵高原鉄道

経済が発展するには、まず道路や鉄道などのインフラの建設が必要である。中国の西部大開発の発展に重要な役割をしているのが、青蔵高原鉄道である。この鉄道は、中華人民共和国西部の青海省西寧とチベット自治区の首都ラサを結ぶ総延長1,956kmの鉄道である。鉄道施工には、1、2期工事があり2期工事には262億人民元の資金が使われた。

西部大開発の代表的プロジェクトとして2007年完成予定としてが、2006年7月1日に全通した。1年前倒ししての完成に中国の勢いを感じる。

さてチベットまでの路線には、崑崙山脈とチベット高原がある。青蔵鉄道チベット区間の最高地点は海拔5,072mの唐古拉峠で、海拔5,068mにある唐古拉駅が「世界一高い場所にある鉄道駅」となっている。また、この工事は鉄道沿線となる「ホフシル自然保護区」の動物の生態系を壊さないように20億元が投じられた。生態系への考慮した工事は、これが初めての例となっている。

青蔵高原鉄道はただの資材運送鉄道ではない。チベットへの観光として旅客列車が運行している。中国西部とチベットの間を走る列車は、全線が非電化のため、ディーゼル機関車で牽引される。標高が高い所まで電気を通すのは困難であるからだろう。客車には、空気が希薄な地域を走行するため、与圧設備や酸素吸引設備等がそなえられている。また、車内のトイレには、障害者用のトイレも用意されている。排水は与圧構造と環境保護の考えで、垂れ流し式でなくタンクの貯蔵式となっている。運賃は航空運賃よりも高い。しかし車窓風景を眺められるので、鉄道ならではのんびりとした優雅な旅行ができると人気がある。またチベットからの天然資源の輸送路としても活用されている。他にも軍事物資、人員の運搬の主要幹線として軍事車両も運行されている。このことには、中国の軍事戦略が垣間見える。青蔵高原鉄道の今後は、支線がネパールの国境まで伸びる予定である。

## 3. 西部少数民族への影響

政府の一大プロジェクトである西部大開発は、開発地域である西部のそこに元来から住む少数民族にすくなくならず影響をあたえた。開発による影響により、西部少数民族であり遊牧民である彼らに政府は、格差の是正や教養の充実をほどこすことにした。これらは、西部大開発計画の1つである。東部つまり、湾岸沿いで経済がもっとも発展している沿海部との格差を縮めようとした。現在、中国の沿海と内陸の経済格差は深刻な社会



問題になっている。しかし、少数民族である彼ら独自の民族性や独自の文化があり、この政策はおもったよりも上手くいかず難航している。政府指導の少数民族への経済・教養能力の向上は良い政策ではあるが、彼ら自身の言葉と昔からの生活様式がある。これらとどう折り合いをつけていくかが課題となるだろう。また、現在西部の砂漠化が進行している。その砂漠が、首都北京にまで届き一部は日本の九州にまで届いている。中国政府は、西部大開発のなかに環境保護や緑化推進等を盛り込んでいる。これは、西部少数民族の遊牧が原因とみなされている砂漠化を阻止するための政策と考える。この遊牧をやめさせ、その代わりとしての物が政府の少数民族への経済・教養能力の向上だと考える。他には、開発により昔ながらそこに住んでいた民族の人々は何処に行けばいいのか。政府はこれらの人々に保証はしているのだろうか。今西部少数民族は辛い境遇にいる。

#### 4. まとめ

今年中国は北京オリンピックが開催される。経済成長を伸ばしている中国に北京オリンピックは、中国の成長をまた一段と推し進めている。日本の東京オリンピックの時のオリンピック景気のようなものである。中国国民の所得も増え、物を買う人や娯楽のためにお金を使う人が多くなっているなかでの西部大開発。格差是正と中国内陸部の発展開発のための改革は、大量のお金と資材、なんといっても時間がかかる。なぜ今になって西部の開発が進められているのか。経済効果と実効性が未知数な西部大開発を政府が推進するのか？

それには、中国政府の苦しい政治決断があった。中国政府は「民族の団結を増進して、社会の安定と辺境防衛の強化を図る」と明確にうちだしている。中国は、多民族国家であるためナショナリズムは体制維持の大事なよりどころである。西部の開発は、国の統一を保ち、体制を維持するためには負担せざるを得ない政治コストなのだそう。日本では、地方の地域格差是正政策は、成果果実の分配の経済問題だった。しかし、中国の格差是正の政策は、国防・治安・国家の維持に直結した、日本の格差是正政策の物よりはるかに政治的な政策なのである。中国は経済成長がものすごいが、中国財政は、インフラ整備や社会保障等で余裕がないのに西部開発に財政資金をつぎ込まないといけない「辛い政治決定である」と言わざるを得ない。中国発展の裏で様々な問題が渦巻いている。

終わりに、一年をどうして中国の問題を調べてきました。中国は、自分が住んでいる国（日本）の一番近くにある大国であり、日本の単一民族と違い多民族国家です。中国は、調べれば調べるほど興味が湧き、発見と面白みが見つかる大国でした。これらの経験から、中国に限らず他の国についても調べていきたいです。

#### 参考文献

1. 吉田 実著 1998.8 『日中報道回想の三十五年』 潮出版社

#### 参考サイト

2. 塾報2001年9月（松下政経塾） | 松下政経塾

[www.mski.or.jp/jukuho/0109jkactivities.html](http://www.mski.or.jp/jukuho/0109jkactivities.html)

3. 青蔵鉄道—Wikipedia

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9D%92%E8%94%B5%E9%89%84%F9%81%93>

4. 政治性の強い「西部大開発」—中国政府、少数民族対策につらい決断/日経

[www.tsugami-workshop.jp/article.jp.cat6id2000020/.html](http://www.tsugami-workshop.jp/article.jp.cat6id2000020/.html)



日中関係について  
—歴史的出来事を中心に—

キーワード： 日中平和友好条約 靖国神社参拝 対日新思考

### 1. はじめに

現代の日中関係は経済が熱く政治は冷たいという「政冷経熱」現象が起こっている。その1つに歴史問題がある。最近起こった事件では、2003年8月のチチハルの旧日本軍遺棄化学兵器による毒ガス事故、9月の珠海の集団買春事件、10月の西安の留学生の寸劇事件が起こり、2004年には3月に尖閣諸島への中国人グループ上陸事件、4月に大阪中国領事館へ右翼街宣社突入事件が起こった。このような事件により反日への思いは強くなっているように感じる。僕達日本人も傍観や批判ばかりするのではなく、中国との長い交流関係、歴史を学び理解し、そこから自分達がどうするべきか考え、今後の日中友好関係に参加していくべきだと思う。お互いの国を理解し認め合うことが今後の日中関係に必要なことではないだろうか。

### 2. 日中平和友好条約について

「日本国と中華人民共和国との間の平和友好条約」。1972年9月の田中角栄首相の訪中による「日中共同声明」を基礎に、6年後の1978年8月に調印、10月に発効した。

1972年2月21日、ニクソン大統領は、米国大統領として初めて訪中、中華人民共和国を事実上承認した。アメリカの対中接近に促されるように、日本は田中角栄首相のもとで中国との国交正常化に踏み切った。田中首相は、1972年9月25日に訪中し、周恩来首相との会談で日中正常化に合意。

9月29日に発表された「日中共同声明」では、日本は中華人民共和国が中国の唯一の合法政府であること、台湾が中国の領土の不可分の一部であるとの中国の立場を尊重すること、中国政府は日本に対する戦争賠償の請求を放棄すること、平和五原則の基礎の上に平和友好関係を確立すること、そして、平和友好条約締結の交渉を行うなどを確認し、両国は同日から外交関係を樹立。ここに日中戦争以来の戦争状態が終結した。同時に日本は台湾（中華民国）と国交断絶、「日華平和条約」（1952年調印）は失効した。

日中平和友好条約の締結交渉は、当時ソ連と対立していた中国側が要求した「覇権条項」の問題で長引いたが、1978年8月12日に調印にこぎつけた。

5条からなる平和友好条約では、両国は平和五原則の基礎の上に両国間の恒久的な平和友好関係を発展させること、国連憲章の原則に基づき、紛争を平和的手段で解決し、武力や武力による威嚇に訴えないこと、両国はアジア・太平洋地域や他の地域で覇権を求めず、また覇権を確立しようとする他国の試みにも反対すること、善隣友好の精神に基づき、両国間の経済関係や文化的関係の発展と両国民の交流促進に努力することなどが約されている。

### 3. 靖国神社参拝について

戦後、戦没者を祀る靖国神社に対して、首相、閣僚の参拝が継続的に行われてきたが、参拝に対しては憲法20条第3項に定められた「国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない」との政教分離規定に違反するとの批判が強くなる。

靖国神社は、戦前は国家神道の下、陸軍省と海軍省が管理する軍事的宗教施設だった。「天皇のため名誉の戦死」をした者を「英霊」として祀り、軍国主義と侵略戦争推進の精神的支柱の役割を果たした。

戦後は一宗教法人になったが、1978年に東条英機ら14人のA級戦犯を「昭和殉難者」として合祀するなど、戦後も過去の軍国主義を美化する国粹神社の本質はなんら変わっていない。じっさい、神社付属の「遊就館」には、自衛戦争論、東京裁判否定論などの“大東亜戦争”賛美の歴史観が溢れている。

1975年に三木武夫首相が初めて8月15日の終戦記念日に「私的参拝」を行っているが、このA級戦犯が合祀された78年（明らかとなったのは翌79年）以降、靖国参拝問題が日中間の外交問題となった。なお、福田赳夫首相は78年に、鈴木善幸首相は80、81、82年に「公私の別」を曖昧に8月15日に参拝している。

1985年には「公式参拝」問題が日中間の外交問題に発展する。「閣僚の参拝問題に関する懇談会」が首相の公式参拝を認める報告を提出したのを受けて、8月15日に中曽根首相が「内閣総理大臣」として公式参拝。神道形式の「二礼二拍手一礼」の代わりに「一礼」、「玉ぐし料」の代わりに「供花料3万円を公費から支出する方式をとった。

これに対して、中国は強く反発。靖国神社にA級戦犯が合祀されていることを問題とした。さらに「軍国主義の美化」だとして反日デモが起きるなど批判が高まったため、翌年、中曽根首相は公式参拝の断念に追い込まれた。以後、歴代首相は終戦記念日の参拝を見送ってきた。社会党の村山首相は参拝そのものを行っていない。

1996年、日本遺族会会長でもあった橋本首相は終戦記念日を避けて自らの誕生日に参拝したが、「内閣総理大臣」と記帳したことから中国の批判を招き、翌年の参拝は見送られている。

#### 4. 対日新思考について

中国言論界に新しく登場した対日関係論の新潮流。歴史問題に固執せず、中日の接近を主張する。

2002年12月に『戦略と管理』誌に掲載された当時の人民日報評論員・馬立誠の「対日関係の新思考」（対日関係新思維）という論文で注目されるようになった。2003年4月には中国人民大学教授の時殷弘が同誌に「中日接近と外交革命」を発表。いまや対日関係論の一つの潮流となったと言ってよい。

その主張は、①歴史問題は解決した、あるいは棚上げにすべき、②日本の軍国主義復活の危険性はない、日本が普通の国になってもかまわない、③中国は古くさい対日観を捨て、日本との接近をはかるべき、などと要約することができる。

一方で、こうした新思考に対する反発は幹部や大衆を問わず根強く、新思考論者たちを「漢奸」（売国奴）と非難する声がある。

胡錦涛政権の登場に合わせるかのように出てきたため、日本では「対日新思考」が中国外交の流れになるのではないかと観測されるようになった。ただ、中国政府当局は「歴史を鑑とする」ことが中日関係の基礎であるとしており、いまのところ言論界の多様性の域を超えるものではない。

「対日関係の新思考」が対日外交転換の布石なのか、日本に対するアドバルーンなのか、たんなる言論界の多様性に過ぎないのかは不明である。「対日関係の新思考」の登場は、日本の「対中関係の新思考」をも問うている。

#### 5. まとめ

政権も変わりだんだん日中関係も良くなってきた。昔、日本は中国にひどいことをしてきた。満州事変など日本の勝手に中国人を殺害したりしたこともある。今、現在、食料や衣服などの面でも日本にとって中国はなくてはならない存在である。しかし今はそういった存在であるが昔そういうこともあったわけだ。

今も、日本に安い賃金で働かされているしかわいそうとっては失礼だがもうちょっと優遇されてもいいと僕は思う。これから日中関係をさらに良くしていくために今までの歴史を受け入れなくてはいけないかなと思います。それは実際にそういうことをされた本人じゃないから言えることなのでしょうがお互いの国を認めなければ仲良くはできないと僕は思います。

お互いがお互いの国を認めればこれからも平和にさらに仲良くなっていけると思います。

#### 参考文献

1. 吉田 実著、1998. 8、『日中報道 回想の三十五年』、潮出版社

#### 参考サイト

1. 中国情報局 <http://searchina.ne.jp/>
2. 現代中国で何が起きているか [http://www31.ocn.ne.jp/~k\\_kaname/](http://www31.ocn.ne.jp/~k_kaname/)

# 中国進出した日系企業の異文化マネジメントについて

北村 結

キーワード：日系企業 文化的相違 異文化マネジメント

## 1.はじめに

このテーマを選んだ理由は父親にある。今年で中国駐在 4 年目になる父は、その 2 年程前から米国や台湾にも行っていた。帰国時に現地での体験や文化の違いを体験談として聞かされていたため、わたしは以前より文化の相違に興味をもっていった。今回の機会を利用して企業の外国進出による異文化との接触や交流の中でどのような問題や違いが生じるのかを調べてみた。

## 2.中国進出理由と企業

中国進出の主な理由としては以下に挙げることができる。

- ①中国からの要求による進出
- ②価格競争力をつけるための進出
- ③日本では売上げが減少していることからの進出
- ④中国を新しい販売市場と位置付けての進出

中国進出企業としては、ソニー、パナソニック（旧称 松下電器産業）、トヨタ、ホンダ、サントリー、日清食品、TOTO 等々。日本で誰もが知っている企業の名前が挙がる。広大な大地を持つ中国に企業は工場と共に降り立ち、日本より遙かに安い人件費を利用して多くの人々を雇用し会社を軌道にのせる。その投資導入の方式には合弁、合作、単独投資などがある。上層部に就く人間などは意欲や能力の高い人間が多く、そういった意味でも人材を欠くことはないという話だ。日本の商品に関して人気や評判は様々のようだが、品質は信用されているように思う。高くても化粧品では資生堂など人気があるようである。

## 3.文化的な相違

### 3.1.正月

中国では 1911 年の辛亥革命後より西暦をつかっている。しかし、正月は日本とは違い旧暦で祝う。西暦と旧暦の二つの年を区別するために、中国では西暦の年を「新年」、旧暦の年を「春節」という。旧暦の年が終わり、新しい年がはじまる頃がちょうど「立春」と同じ時期なので、やってくる春を喜びの気持ちで迎えるように「春節」と呼ぶようになった。中国の春節は西暦では一定でなく、一番早くて一月二十日前後、一番遅くて二月二十日前後となり、毎年異なっている。幾千年来、中国人の春節は既に多くの特有な習慣を形成し、主なものには「春聯」、「年画」、「福字」をはる、「爆竹」を鳴らす、「守歳」（夜寝ないで新年を迎える）、「年始廻り」、「餃子」を作る、「竜灯踊り」、「高足踊り」、「早船踊り」などがある。流れとしては、旧暦 12 月の蠟月から年を越す準備として買い物や大掃除、新しい服などを用意し、農村では豚や羊を屠殺したりと本格的に忙しくなっていく。蠟月三十日は旧暦の大晦日で、その夜は一年で最もにぎやかになる。家族が集まって旧年や新年のことを話したり、カードゲーム等々をしながら年が明けるのを待つ。近年では生活水準の上昇に伴い、家族での夕飯の後、テレビを囲んで新春特別番組を見ながら大晦日を過ごしている。春節当日の朝食は一般的に北方では餃子、南方ではうどんと湯圓（団子のようなもの）を主に食べる。健康や長生きなどの願いを込めて団欒し食す。また、餅を食べる地方もあり、生活が年々一歩一歩よくなることを願う。習慣によると旧暦の正月二日は親戚を訪問する日である。この日は友人や親戚とお茶を飲みながら話し、和やかに暖かい空気で過ごす。正月十五日は元宵節で、灯節とも呼ぶ。各地に数多く文化行事があり、色とりどりに作られた飾り提灯に灯が燈る。新年になってはじめての満月の晩の元宵節は春節の終わりの行事である。この日、人々は元宵(南方は湯圓)を食べ、夜に各種の提灯に灯を燈してその灯や月を鑑賞する。

日本の正月とは本来一月の別名だが、現在は一月一日から一月三日まで(三が日)、または「松の内」(元々は一月十五日まで、現在は一部地域を除き七日まで)を指すことが多いようである。一月一日を「元日」または「元旦」と呼ぶ。「旦」は地平線の上に日の出た様子を表わすことから元旦には元日の朝という意味がある。かつて正月は夏の盆と対応して、半年ごとに先祖を祀る行事であった。しかし、仏教が伝来し、その影響が強くなるにつれ、盆は仏教行事の盂蘭盆と習合して先祖供養の行事とされていき、対する正月は年神を迎えてその年の豊作を祈る「神祭り」として位置付けられた。昔の人々は元旦の日をやってくる年神を迎えるために門には門松を飾り、注連縄をかけた。元旦の朝は早く起き、朝一番に汲んで来た水で顔や手を清め、その後日の出を拝み、国旗を掲げ、神仏を参拝し、家族で挨拶、食事(おせち料理)、お神酒を交わした。古い伝統は社会の変化によって変わっていったが、注連縄などの習慣は今日まで続いている。今日まで続くものとしては、七日「七草粥」、十一日「鏡開き」、十五日「どんど焼き」があげられる。中でも「七草粥」は長く、平安時代に中国から日本に伝わったものである。

上述のように、日中両国の文化は似通っている点が少なくない。長い年月の流れに意味や形は変わってしまっていたが、「家族と団欒して過ごす」という習慣が残っているという共通点があるのは大きいことに思う。古代の日本は多くのことを中国に学んでいたのだから、中国の文化を多く共有しているが、お互いに似ているところを見つけることで親近感が増すだろう。

両国の正月を比べてみると中国にある日系企業は、本国とは違う春節に正月休みがくることがわかる。そうすると、家族が恋しい現地駐在員は正月のとっくに終わった日本に帰ってくることになる。

### 3.2.人間関係

日本人は褒めることに積極的だが、それは社交辞令であることが多い。中国人はそれを本気ととるから、そこに認識の差が生まれる。謙遜する日本人に対し、中国人は自分の能力を素直に主張する。日本は昔から世襲制であったため、努力しても上限があると思われ、現状に甘んじてしまう傾向がある。そして、上下関係を重視していたために個人よりも自分の所属する集団の為に努力する方が意義のあることと誤ってしまっている。中国人が自己アピールをするのは、己の可能性への挑戦であり、己の力量をよく見てもらいたいと思っているからだ。これらから、現地での採用試験の様式も日本とは異なる。

逆に中国人と日本人の似ているところは、欧米人とは違い、それほど外向的な民族ではない点、どちらも個性尊重、公正、公平、人間性の意識が薄い点などである。日本人は上記のとおり、自分の所属する集団(社会・国家等)の価値観に従う傾向がある。民主主義制度なので反対意見の声も聞こえるが、会社帰属意識、甘えの社会構造、あいまい表現、イデオロギー等などの日本人の深層心理に残っている文化意識により集団に従う傾向がまだまだ強いことがわかる。中国人は中華思想や社会主義思想によって民族主義や集団主義の傾向が強化されているようである。

中国人が日系企業や合弁会社に就職する際、アピールをはっきりとする一方、長所は伝わりやすいが、中国語をきちんと理解していない日本人相手(面接をするのが日本人とは限らないであろう)では誇張表現のように聞こえてしまう。履歴書の文章は職歴や勤務年数など数字を使った表現はしっかりと中国語を理解していない人間では勘違いしていることもある。更に日本人の過剰ともとれる社交辞令では、言葉を交わした人間との勘違いも生まれやすい。現在では中国の語学学校に行った後、日系企業に現地の人々と同じように面接を受け、同じ条件で、会社員として就職する日本人が近年増加傾向にあるという。

### 3.3.経済

中国人は「ケチ」と言われることを最大の恥辱と感じる。だから、お客さんを高級レストランに招待し、豪華な料理を沢山注文して最終的に大半残して帰る。勿論、費用は誘ったほうが払う。日本人は「ケチ」と言われてもそこまで気にしない。重要なお客さんでも弁当一つで済ませてしまうことがあるし、親しい友人を屋台へと連れて行く。費用は2万程までで、割り勘も多い。お客への食事は、常に余るくらいでなくてはならないというのが中国でのマナーだが、日本では食べることが礼儀だとされている。食事だけでもお金の使い方がまったく違うのだ。中国人からすると日本人は皆金持ちに見えるのに、日本人はお金を使うのを惜しんでいるように感じられる。中国人からすれば、高い給料を気前よく使い、人生を楽しんでも良いだろうと思うのだ。「ケチ」という言葉の意味合いは殆ど同じなのに、視点と文化が違うと感じ方はまったく別になる。

父の話によれば、相手会社の方に食事に誘われると必ず高級料理店になるという。以前の日本でいう料亭接待に近いものらしい。招待ゴルフなどもあるので、はじめは驚いたようだ。しかし、現地の人々にとってそれは普通のことで、一昔前の日本と考えれば馴染めたようだ。本人はラウンドで勝ったので、またお誘いがあり親しくなれたらしく、昔鍛えたゴルフの腕が役に立っていると言っていた。

## 4.異文化マネジメントについて

異文化とは「生活様式や宗教などが(自分の生活圏と)異なる文化」、マネジメントとは「(事業などの)管理、経営又は管理者、経営者」。言葉の意味のみを合わせると、異文化マネジメントとは「自分の生活圏と異なる様式をもった文化を管理すること」となる。実際、それで大筋間違いないのだが、今回の題材からすると「自分」とは中国進出した日系企業、であり、「異なる文化」とは現地の生活様式、ということになる。そうすると、「管理」という表現は多少おかしく感じる。進出してきたのは企業の方なのだから、当然こちらの生活様式を押し付けるわけにはいかない。現地の人々の協力と好感がなければ成功することができないはずだ。故に基本としては企業側が現地担当とした人間が学んで合わせる事となるだろう。しかし、それでは本土から送った駐在員が今までとは違う生活様式に戸惑い不満を抱くことになってしまう。互いに不満をもって仕事をして、それが上手くいくはずがない。したがって、わたしは異文化マネジメントとは、互いの文化と生活様式を理解できるような形で以って違いを認識し、それについての立場と差の緩和に努めること、ではないかと思う。

## 5.まとめ

中国と日本では似ているようで違う文化と習慣がある。先の戦争後から続く摩擦や不信感からの温度差が段々と消えるようで、浮き彫りになっているようにも感じる。これは他の国との間でも言えることだが、お互いの生活習慣や仕様、今まで受け継がれてきた文化を理解しようという気持ちがなければ交流は上手くいくものではない。少なくとも、理解していこうという意識は必要に思う。勿論、その異なった文化を学ぶ以前に「学ぶ」という考え方に対する教育すらも違うのだから、簡単にいくものではない。教育段階で悪いイメージを植え付けられていたとすれば、理解していこうという意識を持つ事も難しいのかもしれない。しかし、もしも「その国や文化」を嫌おうとするならば、好きだという人々よりも「その国や文化」について知らなくてはならないと思う。何も知らないのに批判をすることは無知であると曝しているようなものだし、とても恥ずかしいことのように思える。そして、この企業というものは利害関係の生まれるものであり、上手くいけば大きな利益があるものだ。相互理解が難しかったとしても、利益の為の妥協からはじめていけば思いのほか上手くいくものかもしれない。プラスイメージのないうちから積極的に行動する事はできないという。それならば、まず「自分の為に」というところからはじめてみるといいのではないかと思う。互いに「利益、発展」という目標がある、それを目指していれば気付いたときにはお互いに理解し合っている可能性がないとは言えない。国と国とが急に友好関係を深めることは難しいだろうが、企業という舞台の上でそれぞれの国の人々が親しくなることはそう難しいことではないだろう。たとえ「利益」という目的だったとしても、企業が異文化交流を進めていく場であることは事実なのだから、そこでの異文化マネジメントはこれからの中国と日本の関係を変えていく事ができる切欠となるのだろう。

## 参考文献

- 1.吉田 実 著 / 『日中報道 回想の三十五年』 / 1998,8 / 潮出版社
- 2.CHINA BUSINESS GUIDE / <http://www.cap-jpn.com/>
- 3.中日文化意識比較研究 / <http://tyuugoku.livedoor.biz/>
- 4.Wikipedia / <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

## 中国茶の魅力について

キーワード： 茶葉 茶器 薬用 有機栽培

### 1. はじめに

中国はお茶の故郷と言われている。お茶が人々の口の中に入ったのは、世界最古とされるお茶の神様『陸羽』の著書『茶経』によると、紀元前2700年頃までに遡る。また、神農が茶葉を使って病気を治した、という記述も残されている。お茶は最初、飲み物として使われていたのではなく、食用、薬用、祭品として用いられていた。西漢の王褒によって記された『僮約』（紀元前59年に書かれた）にある茶が茶の前進であると言われており、中国茶が一般的な飲み物になったのは、約2000年前ということになる。

現在は、中国茶の専門店がオープンするなど、ダイエットや美容、健康志向の考えなどから女性を中心に中国茶が注目を浴びている。

### 2. 茶葉について

広大な中国には、様々な銘茶を生む気候風土があり、悠久の歴史、文化とこうした土壌が美味しい中国茶を作り出していると言われている。中国には一千種類以上もあると言われるお茶があるが、その色や発酵の度合によって、緑茶、紅茶、黒茶、青茶、白茶、黄茶と大きく6つに分けることができる。これらは中国6大茶、基本茶と呼ばれている。

日本人に最も馴染みの深い中国茶といえば烏龍茶である。烏龍茶は「青茶」に属している。

その他に「花茶」と呼ばれるお茶がある。花茶とは花を用いた中国茶の総称で、ジャスミン茶がこれに属する。様々な茶葉に花の香りを吸収させたものと、花そのものを乾燥させ茶葉と混ぜたものがある。工芸花茶は、湯を注ぐと花が咲くように茶葉が開き、花の香りが上品に漂う。

#### 2.1 茶葉の選び方

茶葉を購入するときは必ず「一看、二聞、三摸、四品」をやる。日本語で言うと「一に変な色をしていないか見て、二に変な匂いがしないか匂いを嗅ぐ。三に乾燥しているか触って確かめる。そして最後に試飲をさせてもらう。

#### 2.2 保管に際しての注意点

- ①湿気の多い場所には置かないこと
- ②匂いがある場所で保管しないこと
- ③直射日光の当たる場所は避けること

こういったこともお茶を美味しく頂くのに大切なことである。

### 3. 茶器について

茶器、中国では『茶具』という。古代では、中国でも『茶器』と呼ばれていた。歴史上、最も古く『茶器』の名称が登場したのは、前漢の時代。その頃は金・銀・玉などが材料だった。隋代以降、青銅が主流になり、唐代に入ると陶磁が主流になった。宋代に入ると製陶の技術が進歩し、最盛期を迎える。そして明代には、『紫砂』の急須が作られるようになった。

現代では一級品と呼ばれるような物から、比較的手の届きやすいリーズナブルな物まで幅広くお店に並んでいる。初心者向けに茶器セットというものがあり、茶壺(急須)、茶杯(湯のみ)がセットになっているものが販売されている。茶葉とともに、インターネットでも気軽に購入できるようになっている。

また、中国茶を気軽に楽しむための教室や、講座なども開かれている。

### 4. 健康について

女性が好きな飲み物ランキングで烏龍茶飲料がトップになるなど、非常に高い人気を誇っているのが烏龍茶である。

健康的な食生活に関心が高まって、日本・中国や欧米でもお茶の効能を医学的に解明しようとする動きが出てきた。その結果、お茶は体に良いということは「伝説」ではなく、現代医学で証明された紛れもな



い「事実」であることが分かった。ただし、勘違いしてはいけないことがある。それは、お茶は薬ではないということだ。確かに体に良く、様々な効果・効能があり、様々な病気や症状に対して効いた、或いは予防効果がある。しかし、その効き方は中国の中薬（漢方薬）や、西洋医薬とは全く別のものであるということである。

今までに学会などで報告された烏龍茶の生理機能については以下のものである。

- |           |               |
|-----------|---------------|
| ①中性脂肪低減作用 | ②肥満抑制作用       |
| ③血圧降下作用   | ④風邪予防作用       |
| ⑤発ガン抑制効果  | ⑥アトピー性皮膚炎改善効果 |

これは一部であるが、他にも様々な効果が期待されている。

#### 4-1 「黒烏龍茶」

「黒烏龍茶」とは上記のような効果に加えて、特に大きな効果として、対内に蓄積された中性脂肪を分解するということが挙げられる。中性脂肪とは、肥満の原因であるとともに、血液中の中性脂肪が増えると、動脈硬化を引き起こす恐れもある。特に現代人は、「食」が豊かになり、好きなもの、美味しいものを好きなだけ食べる。といった傾向が強くなる。その中でこの「黒烏龍茶」は非常に注目を浴びているのである。

#### 5.有機栽培について

現在「食」の安全性について厳しく問われている。昨年、いくつかの企業が消費期限を偽って表示し販売していたという衝撃的なニュースが日本を駆け巡った。国内だけに留まらず、中国から輸入される野菜から基準を上回る農薬が検出されたことも話題になった。中国から輸入されている中国茶の茶葉についても消費者からは不安の声も上がっているという。私たちが日常で気軽に飲むであろう中国茶のひとつ、サントリーの『烏龍茶』。「トリアゾホス」と言われる薬品が基準値を超えて検出されたという例について、サントリーではこうした消費者の声にこのように答えている。「長年、指導・育成してきた生産農家を通じ、農薬の使用実績の把握など、残留農薬の源流管理の取り組みを行うとともに、数年ほど前からウーロン茶葉に関するトレーサビリティの構築を進めてきた。また、分析面では残留農薬ポジティブリスト制度を見据えて、2004年8月に中国（上海）品質保証センターを設立し、約400種類の農薬の一斉分析を行い、日本の食品衛生法への適合性を確認したうえで、日本へ輸出をするなどの体制をとっている」

現代の「食」に対する不安の大きさがうかがえる。ものである。

#### 6.まとめ

以前、父の友人の方に連れて行って頂いた中華料理店で、店主の方に勧められて『佳花茶』というお茶を飲む機会があった。私の中では「匂いがきつくて、飲みづらい」というイメージがあったのだが、香りも優しく、料理とともに大変美味しく頂いた。それがお茶に関心を持ったきっかけでもあった。

最近では、テレビ番組や雑誌で健康や美容に良いと宣伝されているが、リラックスしたいときなどに飲むのも良いと感じた。また、お茶の香りや味だけでなく、茶器でも味わうことができるなど様々な楽しみ方があるのも引きつけられる魅力のひとつである。友人や家族と茶器についても語り合いながら頂くのも良いだろう。

そして、様々な種類のお茶を楽しむ中で、中国の長い文化や伝統が感じられることはとても魅力的なことなのではないだろうか。

一方で、本当に安全なのか、身体に害を及ぼすようなことはないのか、といった声もある。健康のために飲む人が増えているなかで、このようなことがあるということは複雑な気持ちである。だがそのなかでも、安心して美味しく飲むお茶作りに尽力されている人々がいる。このような生産者と製造者、中国と日本の作り手の連携した協力があってこそ私たちはこうした「食」から新たな文化との出会いや発見を見つけ出せるのである。

#### 参考文献

- 1.吉田 実著、1998.8、『日中報道 回想の三十五年』、潮出版社
2. <http://www.allchinainfo.com/> 『中国まるごと百科事典』
3. <http://www.tea-jp.com/tea/index.html> 『老地方茶』
4. <http://www.suntory.co.jp/> 『SUNTORY 公式ホームページ』



中国の一人っ子政策について  
一人っ子政策の問題点を中心に

キーワード：男尊女卑

### 1. はじめに

一人っ子政策とは、中国における人口規制政策のことを言い、公式には計画生育と呼ばれている。一人っ子政策は中国の鄧小平指導体制の下で、1978年12月に開催された中国共産党第十一期中央委員会第三回全体会議で提出、その後開始された中国国内体制の改革および対外開放政策である改革開放政策が始動した1979年に始まった。また、幾何級数的人口増に法規制を加え、出産または受胎に計画原理を導入した。この政策の効果によって現在の中国本土では少子化が波及している。ちなみに、少数民族に対して一人っ子政策は免除されており、反対に人口が増えるという結果になっている。また、この政策はあくまでもお互いに中国人の夫婦のみに適用されるため、夫と妻の片方が外国人の場合は、この政策は適用されない。

### 2. 一人っ子政策についての問題点

都市部では一人っ子政策は強化または遵守されたが、家督相続や男尊女卑の傾向の強い農村部では、二人目までに規制緩和し、不法に多産、女兒殺害など多様な問題を起こしたが例外枠として双子や多胎児の場合、全員が戸籍を持つことが許可された。

一人っ子は、両親と祖父母の6人(全員存命であった場合)の大人から一身に愛情を受けて育つため小皇帝(女兒の場合小公主)とも呼ばれ、さまざまな問題を抱えている。

現在、一人っ子政策で生まれた世代が成人に達している。結婚しても、夫婦共々一人っ子で、4人の親と2人の子供を支えていかなければならないため、家庭の負担が更に重くなると同時に、親の老後の面倒を見るのは厳しく、兄弟を持った経験のない一人っ子の子育て能力が問題となっている。また、人民解放軍に入隊した一人っ子新兵が、洗濯もできないといった問題を起こしており、さらには人民解放軍全体の質が急速に低下していると世界の軍事評論家から指摘されている。

他に、肉体労働を積極的に手伝ってくれる男児の出産を希望する農民が多い為、妊娠時に性別検査を行い、胎児が女子の場合は中絶手術を行うケースが多発している。その結果、女性が生まれてくる機会が少なくなることから中国の男女出生比率はかなり偏っており、将来は男性が女性に比べて大幅に多くなるという予測が出ている。現在では、こういった行為を行った結果、女性が極端に減ってしまい結婚できない男性が急増している。

男尊女卑の思想が激しく一人っ子政策化の中国は、世界で最も早く人口比率中の純血と混血の割合が逆転する国だと言われている。また一方で、一人っ子政策に反する形で生まれた第二子以降の子供は戸籍に入ることができず、いわゆる「闇っ子」(「黒孩子(ヘイハイズ)」と呼ばれる)となってしまう。黒孩子是国民として認められないため学校教育や医療などの行政サービスを受けることができないだけでなく、就職などの際にも不利な取扱いを受けることが多いため、成人した黒孩子の多くが働き口を求めて闇社会に流れたり、周辺諸国に不法入国したりするケースが目立っている。黒孩子の総数は既に3000~4000万人にも達していると言われている。

また新疆ウイグル地区では宗教・民族の思想の違いから一人っ子政策を適応するのが難しく民衆もしばしばデモを起こして反対している。チベットに関しては以前一人っ子政策を適応しようとして失敗に終わりその後は政策外地域とされている。

### 3. まとめ

一人っ子政策は違反すると罰金を払うことになるが、高額所得者は罰金を払うことによって普通に第二子以降を産んでいる。また、一人っ子政策は台湾では適用されていないため、今中国の人々は台湾に行き出産するケースが増えている。しかし、中国での出産は10万円位であるのに比べ、台湾では交通費等を入れると120万円位かかると言われており一人っ子政策が適用されていないといっても台湾で出産できるのは上に出ているような罰金を払ってまで第二子を産むことができる高額所得者の人達だけである。

一人っ子政策もまもなく無くなるといわれている。まず、1979年生まれの最初の一人っ子が結婚年齢になった事。中国の婚姻法には「夫婦二人とも兄弟がいない場合、二人の子供の出産は認められる」というのがある。また、上海のような大都会では、結婚も遅くなり、子供がほしくない家族が増え、子供の出生率は低下する傾向もある。中国ではこの問題が今後も続いていくだろうと思われる。

参考サイト:山東青島 中国豆知識 社会情報  
(<http://www.topqd.com/wj/chinajh.htm>)

中国の経済発展  
—産業技術を中心に

キーワード： 産業 技術 性能 公害

### 1. はじめに

現在の中国は人口 13 億人と世界でトップの人口である。エネルギー消費量は世界第 2 位 CO<sub>2</sub> 排出量も第 2 位である。貿易総額も日本を抑え第 3 位と世界の中でも存在感を確立させてきたと言っていいだろう。しかし国内総生産(GDP)は世界第 5 位で日本の 2 分の 1 である。しかも一人当たりでは 1700 ドルと日本の 20 分の 1 といまだ開発途上国となっている。失業者に至っては都市部で 10%を超え農業部ではなんと 1 億 5000 人とほぼ日本人の総人口と変わらないほどの失業者が溢れかえっている。そこで失業者を減らすためには高度経済成長が必須であり新たなエネルギーが必要となってくる。そこから発生するのが環境汚染いわゆる公害問題である。その他にも科学技術の発展などについて書いていこうと思う。

### 2. 環境問題について

中国での一番の環境問題とっていいのが酸性雨の問題であろう。中国では鋼材消費量は世界の 25%、石炭消費量は 30%、セメント消費量は 50%、石油消費量は 10%ともものすごい量のエネルギーを消費している。CO<sub>2</sub> 排出量は日本の 5%に比べ中国は 15%という数字である。So<sub>2</sub> も 2500 万トンをも超えエネルギー別最終エネルギー消費における石炭の割合は 40%にも及んでいる。さらに電力消費の 20%のうち 4 分の 3 を石炭が占め、国内での消費量が 13 億トンにもなり単純計算でなんと 1 年間で一人当たり 1 トンという計算になる。この莫大な石炭の消費量により酸性雨が中国国内を脅かしているのであろう。ここで問題となるのはこの酸性雨が中国だけでなく日本の新潟にも被害を及ぼしているということだ。正直日本人にこの問題は解決しかねるので中国の環境改善に頼るしかないというのが現状ではないだろうか。もう一つ中国で問題となっているのが炭鉱事故による死傷者の激増である。これは労働の安全性、つまり経済成長の欠陥が現れてしまったということではないだろうか？これは中国の石炭産業の終焉と言っても過言ではないだろう。環境について最後に中国では産業発展で工業用水つまり水の問題である。中国の水と言えば黄河が思い浮かぶ人も多いだろう。その黄河が 1991 年に初めて水涸が観測され 1997 年には水涸が観測された日数は 226 日も及んでいる。その黄河の断流の対策としては運河を掘って長江の水を黄河に運ぶ計画が考えられているようだ。2002 年から工事が着工され 2010 年までに完成させる予定だそう。工事費用は合計で 5300 億円日本円にして約 7 兆 7000 億円にも達するばくだいなお金である。それだけ水事情に困っているという現われだろう。一刻も早くこの計画が完成することを願う。

### 3. 技術と性能について

ここでは産業に関することで中国の科学技術について述べたいと思う。中国で科学技術では北京、上海、深センの三つの都市が先頭に立っている。北京では、科学技術の基盤が強く、科学技術成果の事業化に力を入れている。上海は、ハイテク・新技術の産業化と同時に、ハイテク・新技術で伝統産業を改造する発展戦略を採っている。深センは科学技術の基盤が弱いため、企業を中心とした技術開発体制作りを強調する一方、区外の頭脳を借りたり、区外の大学や科学研究機関、企業、多国籍企業を誘致したりして研究開発基地を作り、ハイテク・新技術産業の発展を促進している。次にスタートから 3 年が経過した中国次世代インターネット事業が重大かつ革新的な成果を上げ、次世代通信プロトコル IPv6 を利用した世界初、最大規模のインターネット基幹ネットワークが構築され、運営が安定的に行われた。世界で初めて次世代インターネットの新型アドレス検索システムと世代交代期のインターネット移行技術が打ち出された。国際機関に 7 項目からなる標準化プランを提出。うち 3 項目は世界初の成果であり、全体として世界の先端レベルに達している。もうひとつ現在中国では宇宙開発事情が急速に発展している。中国有人宇宙船「神舟」の開発が進められている。これまでに 1 号機から 4 号機までを無人で打ち上げ各種実験を繰り返している。これまでに有人飛行を実現したのはロシア(旧ソ連)と米国のみであり、これが実現すれば、中国の宇宙開発において大きな意味を持つことになるであろう。また、本年 5 月には 3 機目となる航法衛星「北斗 1 号」を打ち上げ、独自の航法衛星システムを完成させたとしている。中国は宇宙ステーションやスペースシャトルの開発、さらには月面探査や火星探査も目指しており、他の国々による宇宙開発が予算の問題などに直面している中、世界有数の宇宙開発大国になる可能性を秘めている。中国の宇宙開発技術はとても高い評価を得ており、「長征」と呼ばれる運搬用のシリーズは欧州の最新型の「アリアン」には劣るものの日本の最新型である「H-IIA」や欧州の一つ前の型である「アリアン 4」に匹敵するほどである。「長征」

のシリーズは 1970(昭和 45)年から 96(平成 8)年までに 7 回打ち上げに失敗したが、その後は連続して打ち上げに成功しており安定性も評価され、コストも安いことから商業用のロケットとして世界でも代表的なものになっている。さらに、中国は 10(同 22)年までに低コスト・高性能・高信頼性・無公害の次世代ロケットの開発を行う予定を進めている。こうした宇宙開発産業は軍事産業と密接な関係を持っており、弾道ミサイルと並行して行われてきており、「長征」シリーズについても、中距離弾道ミサイルである東風 4 及び大陸間弾道ミサイルである東風 5 をベースに開発されたと言われている。また、軍事科学技術の発展においても、偵察衛星や GPS など、宇宙を利用した技術の重要性は増加の一途を辿っている。中国は宇宙空間の平和利用を訴えているが、中国の宇宙開発関係機関の多くは人民解放軍の機関と言われていることもあり、中国の軍近代化の動向を考える上で、中国の技術力向上におけるものは宇宙開発事業を見ることは有益といえよう。今後も中国の動きにも注目が集まるのは必然と言えるだろう。

#### 4. 結論

中国の事を調べてみて思ったことはいずれ中国は世界のトップに立つだろうと思いました。それは人口にしてもそうですが、技術開発にしても非常に高いレベルに達しているということです。人口 13 億人それだけいると天才と呼べるような人もすごく多いと思います。でも今いいことだけを述べていますが、正直僕が最初に中国に対して抱いたイメージは決したいいものではありません。中国にも格差があり貧しい生活をしている人も多いのが現実でニュースや新聞でも中国製品の不備や不良品に関連する記事を見ることも多々ありました。今の中国は発展段階でまだ完成はされていないと思います。これが完成されたとき中国はトップに立っているはずですが。まだ中国はたくさん抱えている問題を抱えておりエネルギー問題などその他も多々あるがそれを一刻も早く解決し全国民が平和に暮らせるようになることを祈っています。

#### 参考文献

1. 吉田 実著、1998.8、『日中報道 回想の三十五年』、潮出版社

参考サイト

1.中国の科学技術ベスト 10

[http://www.people.ne.jp/2007/01/22/print20070122\\_67136.html](http://www.people.ne.jp/2007/01/22/print20070122_67136.html)

2、中国の水事情

<http://www.i-watersaving.org/2.htm>

3、中国の宇宙開発

[http://jda-clearing.jda.go.jp/hakusho\\_data/2003/2003/html/1513c200.html](http://jda-clearing.jda.go.jp/hakusho_data/2003/2003/html/1513c200.html)

# 中国の食文化について

村井浩昭

## 1. はじめに

中国では、米のお粥か揚げパンを朝食によく食べるようである。街角の屋台で朝早くから、お粥や揚げ菓子が売られており、大勢の人がこれを食べている。最近では西洋化が進み、「ビスケット」「ヨーグルト」「コーンフレーク」などもレギュラー化しつつある。「ビスケット」や「コーンフレーク」が好まれる理由としては「手軽さ」「日持ちの良さ」などが挙げられるだろう。大量に買い置きしておけば、忙しい朝に外まで朝食を買いに行ったり朝食を作ったりする手間が省け、職場や学校に持っていくことも可能である。庶民の味として絶大な支持を得ている火鍋、栄養のバランスも抜群。季節にかかわらず一年中食べる。みんなが集まると、必ず「火鍋に行こう！」という声が出るほど、中国人は火鍋が大好きらしい。

## 2. お酒について

黄酒は主に米、麦、とうもろこしなどの穀物を原料に、麴の力で糖化、発酵させて造られる醸造酒です。濃黄色をした酒色が多いことから「黄酒」と呼ばれます。老酒の語源は「永年貯蔵した古酒」で、中国では老酒（ラオチュウ）、陳酒（チェンジュウ）といわれます。代表的なものとして、紹興酒（浙江省）、福建老酒（福建省）、陳年封缸酒（江西省）、糯米酒（広東省）などがある。白酒は高粱（コウリャン）・とうもろこし・キビ・米・麦など多彩な原料からつくられる蒸留酒。アルコール度数は30～60度。酒色が透明なので「白酒」と呼ばれ、長期熟成させるため口あたりはまるやかである。代表的なものとして、茅台酒（貴州省）、汾酒（山西省）、老窖酒（四川省）などがある。ビールは中国でも、一番良く飲まれているのはやっぱりビールです。新聞などによると、昨年度の中国のビール消費量はアメリカを超えて世界一になったそうだ。代表的なものに、青島ビール（山東省）、燕京ビール（北京）などがある。最近では日本のビールも人気らしい。果酒は葡萄酒やりんご酒など果実を原料として造る醸造酒と、白酒をベースに果汁を配合してつくるお酒の総称。全体的に味わいが濃厚で甘口であることが大きな特徴である。中国のワイン造りは世界で最も古くから行われていたと言われている。最近ではフランスからの技術導入により品質が格段に上がった。薬酒は不老長寿を願って、白酒、黄酒、果酒に漢方の薬材などを漬け込んで作られたものである。氷砂糖を加えた甘口のものもある。代表的なものに五加皮酒（天津市）、竹葉青酒（山西省）メイ瑰露酒（天津市）、人參酒（吉林省）、甲魚[=すっぽん]酒（河北省）、蜥蜴[=トカゲ]酒（広西壮族自治区）、三蛇[=ハブ、マムシ、コブラ]酒（広西壮族自治区）などがある。

## 3. 中国食の伝統について

北京料理は、ベースは淡白な味の山東料理である。昔から北京のコックは山東省出身者が多く、彼らの技が北京人の舌を肥やしてきた。北京は元・明・清の都として栄え、王朝が変わるたびに持ち込まれた各地の名菜が多彩な北京料理を生み出したのである。また清朝宮廷の台所・御膳房の名コックたちが完成させた宮廷料理や、「満漢全席」の伝統を受け継ぐ味は究極の北京料理を完成させている。麦や雑穀が主食であったことから小麦を原料とする餃子や包子、麺類が発達、また魚よりも肉料理が発達している。宮廷料理の流れを汲んで、歯ざわりの良さ、やわらかさ、新鮮さと香りに重点を置いている。調理法：揚げる、数秒間炒める、油で煎り煮る、やわらかく煮る、ロースト、とろ火で煮る、あんかけとバラエティに富んでいる。代表料理は北京ダック、水餃子。上海料理は蘇州、杭州、揚州など江南各地の料理を集大成したものが上海料理である。この地域は長江の下流で海に近く湖沼が多く、エビ、カニ、魚が豊富である。また、中国有数の米作地帯を控え、美味しい米と紹興酒などの産地もある。麺などの簡単な食事から発達した、コクがあって甘く、油けが多く、色が濃いうえ、ふっくらと煮込んだ柔らかさを持つ料理である。コトコトと煮込んだ家庭料理が多いが、早くから国際都市として栄え、外国の調理法の影響を受け、洗練された味が完成している。調理法：煮込む、多い汁で長く煮る、土鍋で煮るなどが中心。代表料理は上海蟹、青豆蝦仁、シャオロンパオ。広東料理は中国料理の中でも「食は広州にあり」と言われ、最も有名な料理として認識されていて、広州を中心に発展した広州菜、客家の料理である東江菜、潮州スワトウ地区で発展した潮州菜がある。世界各地へ渡った広東人の華僑により、世界中に広められ、外国にある中華料理店のほとんどが広東料理である。亜熱帯の新鮮な食材を生かし、淡白な味付けで日本人にも圧倒的な人気がある。海産物を中心にフカヒレ、ツバメの巣など材料はバラエティに富み、料理の種類もとても多く、蛇料理などのゲテモノ料理も特色の一つである。日本でも人気の飲茶は、元々広東の人々が商談などの時、お茶を飲みながら点心をつまむという一つの習慣であった。甘いものから肉や海鮮を使った蒸し物、炒め物まで小さい中にも無限の味が広がる。調理法：煮物、炒め物と並んで、炭や炉で焼く料理が多いのも特色。代表料理は子豚のあぶり焼き、酢豚、牛肉のオイスターソース炒め。四川料理は物産豊富な「天府の国」・四川盆地にはぐくまれ、年中霧が立ち込める特殊な気候風土を背景として四川独特の麻辣の味が生まれた。麻は痺れるような山椒の味、辣は唐辛子の辛い味のことで、さらに油越しで油を大量に使った脂っこい味付けが特徴である。四川料理の魂を決めるのは何と言っても豆板醤！それから椒麻醬や魚醬など、各種の調味料が奥深い複雑な辛さを生み出しています。シロキクラゲ、キヌガサダケは珍味。またザーサイなどの漬物も美味しい。四川省は揚子江上流の、中国の

穀倉地帯で材料には豚肉をはじめ牛肉、鶏、川魚や野菜を多く使う。また小吃菜（前菜、一品料理）が多いのも特徴である。唐辛子をたっぷり入れるので料理の色は赤みがかかっている。調理法はチリソース煮、辛し炒め、宮保という辛い炒め方、魚香という炒め方が多い代表料理は麻婆豆腐、えびのチリソース、鰻の醤油煮込み。山東料理は明、清時代に宮廷料理の主流となった料理で、北京、天津、東北の各地の料理に対して大きな影響を与えた。清湯と呼ばれる澄んだスープや湯と呼ばれるクリームスープが有名である。肉や魚貝の臭みを取るために、香辛料をふんだんに使う。調理法は煮炒め、遠火焼き、油炒め、揚げ物代表料理は黄河鯉の甘酢炒め、燕の巣のコンソメ煮込み、モツの香り炒め。

#### 4. 台湾食について

台湾島は四方を海で囲まれており、また島内中央部に3千メートル級の山々が南北に縦走しているなど、比較的小さな地域であるにも拘わらず、島内に多様な地形や豊かな自然条件が揃っていることでも知られており、豊かな海の幸、山の幸など多くの食材に恵まれている。台湾料理は福建料理をベースに、これら台湾で採れる豊かな食材を取り入れ、郷土料理として独自に発展してきたものである。その特徴として、まず、油を多用する他の地方の中華料理と異なり、比較的淡白で素朴かつ繊細な味付けの料理が多く、塩気も全体に押さえ気味である点を挙げることができる。また、客家料理や日本料理からの影響も受けていることから、醤油を基調とした味付けや、乾物や塩漬けをよく使うといった点も指摘されている。一方で、油で揚げたエシヤロット、ニンニク、メボウキ、コリアンダーなどといった、香りの強い薬味も好んで加えられる。食材面では、魚・カニ・エビ・イカ・貝類など、新鮮な海鮮食材を豊富に使用すること、筍をはじめとする旬の野菜を使った料理が多いといったような点が大きな特徴である。また、住民の多くは開拓民としてのルーツを持っており、食材を無駄なく使うといった発想から牛・豚などの内臓や血液を用いる料理も発達しており、鶏の血餅、豚の胃腸スー（絲）、牛の腎臓の麻油揚げなど、内臓や凝固させた血液を多用する料理が多い点も特徴として挙げることができる。また、肉類では豚肉が中心であることも大きな特徴のひとつで（元来開拓民にとって貴重な動力源である牛を食べる習慣はなかった）、現在台湾でポピュラーなメニューとして定着している牛肉麵など牛肉を使う料理は、基本的に戦後中国大陸から伝わったものということができる。その他、宴会料理では、潮州料理と同様にフカヒレやツバメの巣もよく使われていること、医食同源の思想が深く、漢方薬も料理の材料として用いられることなども特徴として挙げられる。健康上や宗教上の理由から肉や魚を使わない素食も台湾ではよくみられる。日本の素朴な精進料理とは異なり、豆腐やグルテンを用いて作られた素鶏、素魚、素肉と呼ばれる本物そっくりなモドキ料理が特徴である。料理のスタイルで見ると、見た目に洗練された豪華な一皿よりも、むしろ庶民的な家庭料理を基本として発達してきており、家庭的で素朴な料理が多くある点を特徴として挙げることができる。料理一つひとつの分量があまり多くなく、清粥（おかゆ）と一緒に食べさせる郷土色豊かな「小菜」（小皿料理）があることでも有名である。また、古くから外食文化も盛んであり、夜市に代表されるような路上の屋台でも多彩なメニュー（小吃）を楽しむことができ、これらが台湾の食文化の一翼を担っている点も特徴がある。

#### 5. まとめ

現在の中国では、火を加えないものは食べないし、忌避されることもあるが、やはり温かい食事をとることが重視されるため、生野菜の使用や冷たい料理は少ない。朝食によく街角の屋台で食べる。中国の特徴的な酒に「白酒」「黄酒」がある。両方ともカビと酵母を利用した、古くからの中国の酒造りに原点を持つ酒です。中国には清朝宮廷の台所・御膳房の名コックたちが完成させた宮廷料理や、満漢全席などの伝統ある料理がある。

#### 参考文献

1. 吉田 実著、1998.8、『日中報道 回想の三十五年』、潮出版社
2. 中国まるごと百科事典 <http://www.allchinainfo.com/food/>
3. 台湾料理 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B0%E6%B9%BE%E6%96%99%E7%90%86>

## 中国のファッション産業について

キーワード： 歴史 手作り 品質 現在

### 1. はじめに

まず、中国のファッションの歴史について調べました。中国のファッションといえば、チャイナドレスが思いつく。チャイナドレスは清時代の満州女性の丈の長い衣装を元としている。チャイナドレスは【チーパオ】といい、チーとは北京語の口語で満州族のことを指し、17世紀に漢民族側へ侵略してきた「八旗」と呼ばれる満州族の軍隊、政府組織を意味している。パオは長い衣服の意味だ。中華民国時代には新文化運動の影響で徐々に新しいスタイルのチャイナドレスが現れるようになってきた。民国時代初期のチャイナドレスは体のラインを強調せずゆったりとしたラインで広い袖、右開き（右大襟）のデザインが主流だった。この時代のチャイナドレスはまだズボンと一緒に茶苦境するのが一般的だった。チャイナドレスの丈、ズボン丈も服装の規制が緩和されたことにより、以前よりも短めのものを着用できるようになった。

次に服装にある意味と規制について述べます。

清朝時代の服装はその地位によりデザイン、刺繍柄などが全て細かく決められていて、個人の好みは完全に排除されていた。多くの規制によりファッション的な自由度、価値はほとんど見出すことが出来なかった。しかし、その清朝も1912年の滅亡とともに、当時の規制、週刊も終焉の時を向かえた。女性にとっての清朝の滅亡、そして中華民国誕生による最も大きな変化は纏足の法律による禁止で、漢の時代から続いていた女性の足を布できつくし縛り、小さいままに留めておくという習慣がほぼなくなりました。この時代を境に旧習はほぼ終焉し、中国女性の新しい時代が始まった。

### 2. 次に商品の手作りについて

中国は他の国と比べて人口が多いし、賃金が安いので大人数による手作りをしている。手作りのよいところは機会と違い細かい作業や、人間にしかできないような作業ができることである。さらに、日本の adidas のユニフォームなども中国の工場で作られ、日本に配送されているのである。また、日本の服や家具、電化製品に至るまで様々なものが **Made in China** である。よく見てみるとほとんどものが中国製で、日本製のもののほうが少ないのである。

### 3. よく問題となっている品質について

日本人からすると一般的に日本製の物以外のものは品質がよくないのではないかと考える人が多いと思う。中国国家品質監督検閲検疫総局によると、中国製の玩具や子ども服の 20%以上が品質基準を満たしていないことが明らかになった。また、玩具の中には危険が潜んでいるものもあるという。中国北部の河北省にある工場で作られた縫いぐるみの中に汚れたカーペットの綿毛や使用済みのインスタントヌードルのパッケージなどの産業廃棄物が含まれ、全国的に破格の値段で売られていたケースがあったという。品質監督当局は「こうした縫いぐるみは細菌やウイルスを含んでいる場合があり、子供が触ると短期的にかゆみを発症したり、長期的には病気になる恐れがある」と警告している。当局はまた、子ども服についても皮膚の生涯を引き起こす可能性のある化学物質が含まれているものがあると指摘した。アメリカでは中国のペットフードを食べてペットが死亡するという事件も起きており、中国製品に対する警戒感が強まっている。

### 4. 現在のファッションについて

若い女性の服装を見ていると、二通りある。一つは中国らしい原色を使ったもので、派手な感じのものです。もう一つは、中国らしくないもので、日本人から見たら落ち着いたおしゃれな感じのものです。ブティックでも、日本人に合いそうな服がたくさん売られています。こうした服は、外国向けが中国国内でも普及してきていることや、海外の DVD などを見てファッションへの関心が高まっていることが影響しているのだと思う。ここ5年の間に中国の女性のファッションは一気に変化した。そのうちに中国がファッションの流行を作るのではないかと思うくらいだ。実際に中国のチェ・ジウさん・チャン・ツイーさんなどの真似をする日本人もいるくらいだから。



## 5. 感想

今回、中国のファッション産業について調べていくと、中国のファッションも日本と似ているなと思いました。どこが似ているかというと、日本には着物という昔からの伝統的な服装があり、中国にはチャイナドレスというものがある。また、日本も海外のファッションを取り入れるようになり、中国もまた海外のファッションを取り入れてきているという部分から似ているなと思いました。品質などについては、不安なところもありますが、中国にしかできない人による大量生産はこれからも続けてほしいと思う。身の周りを見ても **MADE IN CHINA** に囲まれている日本人にとって中国製の商品は欠かせない物なので中国には感謝しなければならないと思う。これからも中国のファッションについて調べていきたいと思います。

## 参考文献

1. 吉田 実著、1998.8、『日中報道 回想の三十五年』、潮出版社

## 参考サイト

2. <http://www.touekiki.com/tkrekishih.htm> チャイナドレスの歴史
3. <http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPJAPAN-26160320070528>  
中国製玩具の20%が品質満たさず

中国の経済発展について  
—産業技術を中心に  
柴田裕士

キーワード： 産業 技術 性能 公害

### 1. はじめに

現在の中国は人口 13 億人と世界でトップである。エネルギー消費量は世界第 2 位で、CO<sub>2</sub> 排出量も第 2 位である。貿易総額も日本を抑え第 3 位と世界の中でも存在感を確立させてきたと言っていいだろう。しかし、国内総生産(GDP)は世界第 5 位で日本の 2 分の 1 である。しかも一人当たりでは 1700 ドルと日本の 20 分の 1 といまだ開発途上国となっている。失業者に至っては都市部で 10%を超え農業部ではなんと 1 億 5000 人とほぼ日本人の総人口と変わらないほどの失業者が溢れかえっている。そこで失業者を減らすためには高度経済成長が必須であり新たなエネルギーが必要となってくる。そこから発生するのが環境汚染いわゆる公害問題である。その他にも科学技術の発展などについて書いていこうと思う。

### 2. 環境問題について.

中国での一番の環境問題とっていいのが酸性雨の問題であろう。中国では鋼材消費量は世界の 25%、石炭消費量は 30%、セメント消費量は 50%、石油消費量は 10%ともものすごい量のエネルギーを消費している。CO<sub>2</sub> 排出量は日本の 5%に比べ中国は 15%という数字である。SO<sub>2</sub> も 2500 万トンをも超えエネルギー別最終エネルギー消費における石炭の割合は 40%にも及んでいる。さらに電力消費の 20%のうち 4 分の 3 を石炭が占め、国内での消費量が 13 億トンにもなり単純計算でなんと 1 年間で一人当たり 1 トンという計算になる。この莫大な石炭の消費量により酸性雨が中国国内を脅かしているのであろう。ここで問題となるのはこの酸性雨が中国だけでなく日本の新潟にも被害を及ぼしているということだ。正直日本人にこの問題は解決しかねるので中国の環境改善に頼るしかないというのが現状ではないだろうか。もう一つ中国で問題となっているのが炭鉱事故による死傷者の激増である。これは労働の安全性、つまり経済成長の欠陥が現れてしまったということではないだろうか？これは中国の石炭産業の終焉と言っても過言ではないだろう。環境について最後に中国では産業発展で工業用水つまり水の問題である。中国の水と言えば黄河が思い浮かぶ人も多いだろう。その黄河が 1991 年に初めて水涸が観測され 1997 年には水涸が観測された日数は 226 日も及んでいる。その黄河の断流の対策としては運河を掘って長江の水を黄河に運ぶ計画が考えられているようだ。2002 年から工事が着工され 2010 年までに完成させる予定だそう。工事費用は合計で 5300 億円日本円にして約 7 兆 7000 億円にも達するばくだいなお金である。それだけ水事情に困っているという現われだろう。一刻も早くこの計画が完成することを願う。

### 3. 技術と性能について

ここでは産業に関する事で中国の科学技術について述べたいと思う。中国で科学技術では北京、上海、深センの三つの都市が先頭に立っている。北京では、科学技術の基盤が強く、科学技術成果の事業化に力を入れている。上海は、ハイテク・新技術の産業化と同時に、ハイテク・新技術で伝統産業を改造する発展戦略を採っている。深センは科学技術の基盤が弱いため、企業を中心とした技術開発体制作りを強調する一方、区外の頭脳を借りたり、区外の大学や科学研究機関、企業、多国籍企業を誘致したりして研究開発基地を作り、ハイテク・新技術産業の発展を促進している。次にスタートから 3 年が経過した中国次世代インターネット事業が重大かつ革新的な成果を上げ、次世代通信プロトコル IPv6 を利用した世界初、最大規模のインターネット基幹ネットワークが構築され、運営が安定的に行われた。世界で初めて次世代インターネットの新型アドレス検索システムと世代交代期のインターネット移行技術が打ち出された。国際機関に 7 項目からなる標準化プランを提出。うち 3 項目は世界初の成果であり、全体として世界の先端レベルに達している。もうひとつ現在中国では宇宙開発事情が急速に発展している。中国有人宇宙船「神舟」の開発が進められている。これまでに 1 号機から 4 号機までを無人で打ち上げ各種実験を繰り返している。これまでに有人飛行を実現したのはロシア(旧ソ連)と米国のみであり、これが実現すれば、中国の宇宙開発において大きな意味を持つことになるであろう。また、本年 5 月には 3 機目となる航法衛星「北斗 1 号」を打ち上げ、独自の航法衛星システムを完成させたとしている。中国は宇宙ステーションやスペースシャトルの開発、さらには月面探査や火星探査も目指しており、他の国々による宇宙開発が予算の問題などに直面している中、世界有数の宇宙開発大国になる可能性を秘めている。中国の宇宙開発技術はとても高い評価を得ており、「長征」と呼ばれる運搬用のシリーズは欧州の最新型の「アリアン」には劣るものの日本の最新型である「H-IIA」や欧州の一つ前の型である「アリアン 4」に匹敵するほどである。「長征」のシリーズは 1970(昭和 45)年から 96(平成 8)年までに 7 回打ち上げに失敗したが、その後は連続して打ち上げに成功しており安定性も評価され、コストも安いことから商業用のロケットとして世界でも代表的なものになっ

ている。さらに、中国は10(同22)年までに低コスト・高性能・高信頼性・無公害の次世代ロケットの開発を行う予定を進めている。こうした宇宙開発産業は軍事産業と密接な関係を持っており、弾道ミサイルと並行して行われてきており、「長征」シリーズについても、中距離弾道ミサイルである東風4及び大陸間弾道ミサイルである東風5をベースに開発されたと言われている。また、軍事科学技術の発展においても、偵察衛星やGPSなど、宇宙を利用した技術の重要性は増加の一途を辿っている。中国は宇宙空間の平和利用を訴えているが、中国の宇宙開発関係機関の多くは人民解放軍の機関と言われていることもあり、中国の軍近代化の動向を考える上で、中国の技術力向上におけるものは宇宙開発事業を見ることは有益といえよう。今後も中国の動きにも注目が集まるのは必然と言えるだろう。

#### 4. 結論

中国の事を調べてみて思ったことはいずれ中国は世界のトップに立つだろうと思いました。それは人口にしてもそうですが、技術開発にしても非常に高いレベルに達しているということです。人口13億人それだけいると天才と呼べるような人もすごく多いと思います。でも今いいことだけを述べていますが、正直僕が最初に中国に対して抱いたイメージは決したいいものではありません。中国にも格差があり貧しい生活をしている人も多いのが現実でニュースや新聞でも中国製品の不備や不良品に関連する記事を見ることも多々ありました。今の中国は発展段階でまだ完成はされていないと思います。これが完成されたとき中国はトップに立っているはずですが。まだ中国はたくさん問題を抱えておりエネルギー問題などその他も多々あるがそれを一刻も早く解決し全国民が平和に暮らせるようになることを祈っています。

#### 参考文献

1. 吉田 実著、1998.8、『日中報道 回想の三十五年』、潮出版社

#### 参考サイト

1.中国の科学技術ベスト10

[http://www.people.ne.jp/2007/01/22/print20070122\\_67136.html](http://www.people.ne.jp/2007/01/22/print20070122_67136.html)

2、中国の水事情

<http://www.i-watersaving.org/2.htm>

3、中国の宇宙開発

[http://jda-clearing.jda.go.jp/hakusho\\_data/2003/2003/html/1513c200.html](http://jda-clearing.jda.go.jp/hakusho_data/2003/2003/html/1513c200.html)

日本と中国の教育について  
—大学教育を中心に

キーワード：中国の大学事情 日本大学事情 留学 米国型高等教育制度

1. はじめに

日本と中国の学校教育について調べた。日本と中国の大学教育について書く。中国の大学について述べておく、約 1800 校ある大学のうち、国公立大学がほとんどであり、企業・集団・個人による民営の私立大学は、そのうちの約 240 校ほどである。北京などの地名の付いている大学は国公立大学であるケースがほとんどである。

2. 中国の大学事情

変革期にある中国の大学は「世界標準」を見据えているようだ。そこには世界の学問の最先端に肉薄しようと激しく追いつける姿があった。研究者たちは常に世界を見据えており、国際舞台での発表意欲も日本より旺盛。米国留学組が博士号を取って帰国し、既に最先端の研究が広まっているという。また、中国では、米国での休暇期間を利用し、一線級の教授を米国から呼んで講演してもらうという授業も行われている。グローバル化を進める条件として、中国人学生の英語力の高さがある。日本の学生では難しい。中国の大学では、一定の英語試験をパスしないと卒業できないことも背景にあるという。企業が即戦力を求めるため、就職をにらんで、実用的な学問を学生たちが必死に勉強する。留学・大学院進学も普通の選択肢となっている。その循環が社会を底上げしているようだ。

一方で、日本のある教授は、中国を舞台に、世界中の大学が本当にレベルの高い学生の奪い合いをしていると現状を分析した。欧米諸国では、教育担当大臣が大学の学長を引き連れて中国を訪ね、国として大々的に人材確保策を進めようとしているのに対し、日本は各大学がこれまで、明確なリーダーシップもなく単体で活動をしてきたため、存在感も薄い。国内に閉じこもっている日本の学生は世界の潮流から乗り遅れていると危機感を強めている。中国の大学のグローバル化に関連しては、昨年、東証一部上場企業を対象に行った調査から、多くの企業が、日本人のアジア留学を評価するようになってきた。特に、香港を含めた中国留学組に関心が高いとした。一方で、欧米留学組との比較では、自然科学分野での評価が低いという結果が出ており、日本企業は中国の大学のレベルを正しく認識していないのではないかと推測される。大学に競争を促すという点で、中国はアジアの中で最も大規模に高等教育の改革を行っている国という指摘も確かであろう。中国も高学歴を求める社会になりつつあり、学歴取得のための不正も起こっている。拡大路線で膨大な借金を抱えた大学の問題などとともに、負の側面からも目が離せない。

3. 日本の大学事情

日本の大学や大学院での授業や成績評価について外国人のみならず日本人からも手厳しい意見が多く出ている。アメリカから日本の大学院に入ったとき、出席さえすれば優のもらえる授業にびっくり仰天した。これでは学生も達成の喜びを味わえないであろう。中国の大学・大学院に比べて日本の大学生はリラックスし過ぎている。勉強しよう、勉強する、という雰囲気が感じられない。中国では大人数クラスでも先生がどんどん質問し答えさせるので教室には、はりつめた空気が漂っている。日本の大学院の授業は特に悪い。現在は大学院の修了者も大半は企業に就職する。入社するとき、企業が、学生の専門能力・習熟度の正確な尺度として使えるような成績評価をして欲しい。大学院の成績は全員「優」が多いのはおかしい。大学院の授業は、もっと十分な準備をしてきっちりした講義をして欲しい。学生にとって先生はどんなときでも尊敬できる存在であって欲しい。などである。大学院の授業内容の充実は、その必要性が叫ばれて久しいが、未だその改善が十分でないのは事実である。

4. 学歴差別を解消し、自由と多様性を尊重する米国型の高等教育制度を導入すること

現代における 18 歳以上の人口の大学進学率は 50%を超えており、「大卒であること」などの学歴を基準とした受験資格・応募資格・人事評価・採用その他の面での学歴による差別は無意味になった。かえって、「高卒まで」というように受験資格を制限している地方自治体に大卒や短大卒であることを隠して応募して採用されていた職員が大勢いることが発覚して大きな社会問題になっているが、「大学全入時代」を迎えている現在、このような学歴差別は解消されるべき時期にきている。さらに、中卒と大卒、一流大学と三流大学、日本の大学と海外の大学、米国の認定大学と非認定大学という表面的な肩書きを重視する学歴差別を解消しなければならない。つまり、実力・実績・学生等からの評価こそが問われる、実力主義のグローバルな時代が到来してきている。従って、米国型の高等教育制度の導入に向けた教育改革を進めていくべきである。既に米国型の大学入試制度である AO 入試と推薦入試は、日本の大学においても部分的に採用されているが、

文部科学省の規制によらない、各大学・大学院の自立した自由な審査と評価に基づく大学入試制度を実現しなければならない。(AO入試とは、Admissions Office という第三者の選考機関が、志願者の経歴書・面接・小論文の審査を行い、能力・適性・目的意識などを総合的に評価・判定する入試制度である。推薦入試とは、志願者の自薦や高校などからの他薦を受付けている大学側が、その志願者の審査と評価を行う入試制度である。いずれも暗記力重視の学力テストに偏らないメリットがある反面、1つの大学しか志願できない専願制のデメリットがあるなど、まだまだ改善すべき諸点がある。) 従来の4月、入学制だけではなく、9月入学制も2005年度から導入されたが、毎月入学制もあって然るべきである。すべては規制緩和から始まる。

## 5. まとめ

中国の大学はとても競争が激しく世界的に見ても急成長していると感じた。留学をする生徒が多く、一定の英語試験をパスしないと卒業できないということに驚いた。英語力が日本の大学とはレベルが全然違うということを実感させられた。また日本と中国の大学の大きな違いは生徒の授業態度と教師の姿勢の違いだと思った。日本の学校教育の中ではまず生徒・学生が自分の意志と力で取り組むことの重要なものの一つである宿題やレポートを、学ぶ意欲や向上に役立てる努力をする。宿題は必ずまじめにやるものという習慣を身につけさせることが必要だと思った。終わりに、今の日本の社会には、教育、福祉、環境と大きな問題が山積みになっている。これを日本国民の全てが、その能力に応じて社会に最適の方法で解決する手段を考え、実行に移せるようになる必要がある。これは日本国民全体の責任であるとはいえ、その先導をつとめるべきは教師、専門家である。教師は偏差値一辺倒の生活を余儀なくされている子供の耳に、このような社会のあるべき姿を聞かせる努力をするべきである。

## 参考文献

吉田 実著、1998.8、『日中報道 回想の三十五年』、潮出版社

日本の教育改革の方向性について

<http://www.iond-univ.org/The%20Right%20to%20Higher%20Education.htm>

中国の大学事情

<http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/renai/20070810us41.htm?from=goo>

## 中華料理と中国野菜について

森あゆみ

キーワード：中華料理屋 台湾ラーメン 中国野菜

### 1.はじめに

春学期に中国の食事のマナーについて調べましたが、秋学期は次のステップとして、中国料理を食するというテーマに、中華料理屋やその中華料理に使われている食材などに興味を持ち調べてみました。

### 2.日本の中華料理屋

日本各地に点在する中華料理屋は数多くあると思いますが、一軒当たりの人口割合はどうなっているかについて調べてみました。そして、名古屋発の台湾ラーメンについても調べてみました。

#### 2.1.中華料理屋の数

表 中華料理屋人口分布

順位	場所	中華料理屋件数	1軒あたりの人口割合
第1位	東京都	3, 840軒	3, 275人に1軒
第2位	大阪府	1, 653軒	5, 334人に1軒
第3位	神奈川県	1, 630軒	5, 394人に1軒
第4位	埼玉県	1, 422軒	4, 961人に1軒
第5位	愛知県	1, 055軒	6, 876人に1軒

表のように、上位にはやはり主要都市がかたまっていることがわかります。それに比べ、秋田県では、都道府県で最も少ない60件です。その次に島根県の62件など、1位との差は激しいものとなりました。

2007年11月19日にホテルやレストランの格付けガイドブックとして知られる「ミシュランガイド」が発表され、ミシュランガイドに150軒選ばれた中のうち、中華料理は5軒選ばれた。二つ星に厲家菜、一つ星にチャイナブルー、中国飯店富麗華、メゾン・ド・ウメモト上海、桃の木である。中華料理がミシュランガイドに選ばれたのは初めてだが、日本人が好きな中華料理が5軒しか選ばれていませんが、もうちょっと選ばれてもよいはずです。

#### 2.2.名古屋の台湾料理屋『味仙』の台湾ラーメン

名古屋でおなじみの中国台湾料理屋といえば、やはり『味仙』ではないでしょうか。そして、『味仙』といえばやはり台湾ラーメンです。この台湾ラーメンの元祖は名古屋市千種区今池一の中国台湾料理店『味仙』だといわれています。30年ほど前、同店の主人郭明優さん(60)が台湾で小皿に盛って食べる「台仔(たんつ) 麵」を、激辛にアレンジして出したのが最初だといえます。郭さんが、台湾出身ということで、台湾ラーメンと名付けられたそうです。しかし、当の台湾には似た麺はあっても、同じ激辛ラーメンはないのだそうです。しかし、県中華料理環境衛生同業組合によると、現在名古屋市内に約380店あるとされるラーメン専門店のうち、200店以上が台湾ラーメンを出しています。全国規模のチェーン店でさえ、この地域では特別にメニューに加えているほどです。それほど、名古屋では、台湾ラーメンに親しみがあるのです。

#### 2.3.実際に食べてみた感想

この『味仙』の台湾ラーメンは、スープは透明で一見辛くなさそうに見えますが、麺の上にはたっぷりのミンチとにらごのっけていて、赤い唐辛子がかなりののっけています。一口食べるだけで口の中が麻痺して痙攣が起きるほどです。しかし、やめられません。おいしいからです。真夏でもこれですから、満面の汗と闘いながら食べ終わると、暑さが吹っ飛ばすような爽快さ。よその方にお勧めの名古屋の逸品です。けれども、台湾ラーメンは、坦々麺とはまた違う辛さの良さがあつたように思いました。またこの辛さは日本独自の辛さであり、中国では輪切りの唐辛子ではなく、一味を大量に入れるそうです。そして、この辛さはバブル後の日本人を元気付けていたようです。

### 3.中国野菜の種類

中華料理に使われている中国野菜であるが、種類を一つ一つ挙げていたらきりが無い。ここでは、今旬の冬の野菜について述べたいと思う。

3.1.ター菜(ターサイ)：冬の代表的な野菜。霜の降りる11月中旬から2月下旬まで霜にうたれ円盤型に形をかえる。地面に這うように広がり、大きな濃緑色の菊の花を思わせる。冬場の青野菜不足に貴重な野菜である。濃緑の葉はビタミンA・C・鉄・カルシウムなどの栄養素を多く含み、特にカロチンの含有量は中国野菜の中では最大である。

3.2.豆苗(トウモロコシ)：エンドウの若芽、収穫量がとても少なく、贅沢な野菜といえる。エンドウの香りと上品な甘み、シャキッとした歯ごたえがある。肉・魚にも負けない、お皿の中で主役をとれる高級な野菜です。昔の中国では皇帝のみが召し上がったといわれています。各種ビタミンやリン分を多く含み、冬場の栄

養補給に効果的です。

3.3.包心芥菜（パオシンガイチョイ）：広東地方で主に栽培され、大葉カラシナの結球種の一つ。カラシ菜の仲間で葉がピリッと辛い。カロチン、ビタミンCなどを多く含む。またカリウムやカルシウムなどの無機質も多い。

3.4.青梗菜（チンゲンサイ）：今や代表的な中国野菜であり、主に中国の華南と華中で栽培される白菜の仲間。葉柄は幅が広く、肉厚で薄緑色、葉は青緑色。栄養価が非常に高い野菜です。ビタミンCビタミンA効力を持つカロリンがたっぷり、カルシウム、ナトリウムも多い。

3.5.ミニ青梗菜（ミニチンゲンサイ）：まさに青梗菜の小形版、通常の青梗菜に比べ直形3cm高さ10cmの小ささである。切らずにそのまま料理添え物として豪華さを出します。ビタミンCビタミンA効力を持つカロリンがたっぷり、カルシウム、ナトリウムも多い。

3.6 広東白菜苗（カントンパクチョイミョウ）：今では中国料理のレストランに欠かせない、野菜のひとつです。近年ダントツで需要が多い商品であり、広東白菜の小形版。アクが少なく淡白な味わい、火を通すとトロリとしたやわらかな歯ざわりになるので、そのまま切らずにスープ煮、煮込み料理には欠かせない野菜である。ビタミンA効力、ビタミンCを含む。

#### 4.中国野菜の栽培

千葉県にある木村商店、ここでは、農薬を減らした有機肥料・特別栽培で中国野菜を栽培している。ここでは、肥料へのこだわりとして、穀とうもろこし粕から作った堆肥をベースに米ぬか、ゴマ油粕、魚粉等を酵母、乳酸菌で発酵させた有機質肥料主体の施肥を行っており、これによって、一層旨味のある中国野菜を育成しています。

また、種のこだわりとしては、野菜の種類によって、種子販売会社と相談して、より本場中国の食材に近づくよう努力しています。そして、減農薬栽培へのとりくみとして、葉面散布材として、食酢、漢方薬草、野生植物（クジン・ダイビャクブ・コウコウ・ヤガイコウ）より抽出した植物保護液で、害虫の忌避、駆除をしています。このようにして日本で安全な中国野菜を栽培しています。

#### 5.まとめ

中華料理について今回詳しく調べてみて、中国野菜のことや中華料理屋について勉強することができ、初めて知ることたくさんあったので調べてみて良かったです。また、中国野菜の安全性を高めるという点での大変さを知りました。日本人は、食べ物に対して安全性や見た目を重視するので非常に大変だと感じました。

#### 参考文献

1.吉田 実著、1998.8、『日中報道 回想の三十五年』、潮出版社

2 中華料理パーク <http://www.chuka-park.com/status.php>

3.中国台湾料理 味仙 <http://www.misen.ne.jp/>